

《コース専門教育科目 コース専門応用科目》

科目名	多文化保育研究				
担当者氏名	早川 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択必修	開講年次・開講期	4年・秋期

《授業の概要》

保育や教育現場には多くの外国人の子ども達が見られるようになった。国際理解教育の基礎的理論を理解し、それらの具体的な内容や方法を学び、多文化教育活動及び授業の指導計画、環境構成等、多文化保育・教育の実践力を身に付けていく。進め方は多文化教育に関する資料や文献を収集し、それらの資料づくりを通じて理解を深めていく。教材づくりや指導計画案の作成、模擬授業などを行いながら進める

《授業の到達目標》

- ・目標：多文化・国際教育の基礎理論を理解し、多文化の子どもや保護者への支援ができる実践力を身に付ける
- ・テーマ：グローバルな視点を育み身に付けていこう

《成績評価の方法》

- ・平常点（授業態度及び取り組み） 30%・課題（個人別）
- ・グループ別） 30%・期末レポート
- 40%

《テキスト》

授業に応じてプリントを配布します

《参考図書》

萩原元昭 「多文化保育論」 学文社

《授業時間外学習》

予習には：保育・教育現場では文化等の相違で、外国の子どもや保護者との間で問題が生じている。そのためには多文化保育・教育に対しての基礎理論を習得しなければならない。日本と外国の文化や食べ物の相違等が存在する、それらの知識を習得には多くの情報や文献の収集し、資料をまとめる。復習には：資料をまとめ、それらを検討して考察していく。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業総括・多文化保育・教育とは	グローバル化した現在、世界の国々で多文化教育が課題になっている。そのためには国際理解教育の必要性が急務である、その点から考察しながら授業を進める。
2	多文化保育・教育の理論的考察	多文化保育に関する理論を展開しながら、多文化保育の内容や方法について、その目的や意義について考察しながら進める。
3	多文化保育・教育の歴史について	多文化保育・教育の歴史的流れとしては2つあり、アメリカと西欧の多文化教育の歴史と日本の多文化教育の歴史を概観していく。
4	多様性に応じた多文化教育・保育実践の事例	保育・教育現場で、文化や食べ物などの違いで保育・教育がむづかしい点について文献を収集し、実際に必要な知識を学習する。
5	言葉に関する保育・教育実践と事例	外国人が日本に就学すると、一番の壁は言葉と習慣の違いだといわれている。保育や教育現場で言葉に関してどのような対応をしているのかを多くの事例から学習する。
6	食事に関する保育・教育実践と事例	食事に関しては、国により食べていいものとそうでないものとの相違がある。それは宗教と関連がある、そのことについての知識を学ぶ。
7	保護者への支援の実践事例	保護者の一番の心配事は、日本での学校生活や友人関係である、それを安心してもらえるように支援を検討していくことを学習する。
8	小学校における多文化教育実践事例	小学校に就学時の問題点として、言葉の問題・教科学習の問題・友人関係の問題である、外国の子どもにどのように対応していけばいいのかを事例を通じて勉強していく。
9	多文化教育・保育実践における課題	外国人が日本に就学する課題として、やはり言葉と習慣の違いである。その課題を保育や教育現場での対応方法を多くの事例から学びながら学習していく。
10	多文化教育・保育教材研究	外国の子ども達を中心として、周りの子ども達もグローバルな視点を保つことが出来るような教材を各自考え、発表して、皆で良い教材を共有していけるように学習する
11	教材づくりと討議	一人ひとりが自分の作った教材を発表して、皆でそれについてディスカッションし、さらに、良い教材にしていけるように検討しながら学習する。
12	多文化教育・保育の計画	今までの保育・教育現場で、外国人の子どもをも含めてクラスの皆が成長できた事例を検討し、ディスカッションしながら多文化保育・教育の計画を考察していく。
13	多文化教育・保育の実際と討議	実際の教材を基に、授業を展開しながら皆で良い点や悪かった点をディスカッションしていく。
14	多文化教育・保育の環境構成	多文化保育・教育の教材研究や事例を参考に子ども達にとってどのように学習していくことが成長につながっていく環境構成を学んでいく。
15	多文化保育・教育のまとめと今後の課題	多文化保育・教育のまとめと今後の課題を考察する。